

■ 本日のアジェンダ

1. なぜ子どもに対話の場を作ることが必要なのか？
2. どうやって子どもの声を聴いていけばいいのか？

◎ 『こどもかいぎ』の柔らかい定義

「子どもたちが輪になって、自由に話し合うこと」

1. 5-6人の子どもたちで行う
2. 様々な内容について話し合う
3. 自由になんでも発言してよい
4. お友達の話していることを聴く
5. 『おとな』のファシリテーターが進行役
6. 答えはなくてよい

◎ 子どもの頭の中で起こっていること



◎ 『こどもかいぎ』 で大切な3つのこと

1. 【聴く】

参加した全員が、しっかり話を「聴く」こと

2. 【発言する】

できる限り、参加者全員に「発言する」機会を作ること

3. 【尊重される】

話さない子の存在も「尊重」されること

◎ 『こどもかいぎ』 の主な3つの影響・効果

1. 子どもたちの個々への影響

聞く力、理解力、思考力、表現力、自己肯定力などなど……

2. 周りの子どもたちへの影響

環境が和やかで過ごしやすくなる居場所に
共感性、仲間意識、多様性

3. 接する保育士や大人への影響

今まで知らなかった子どもたちの世界や心の内
大人と子どもの相互理解

◎ 『こどもかいぎ』に参加したお子さんたちの声

「自分と違う意見があることを初めて知って、楽しかった」

「自分の話を聞いてもらえて、自信が持てた」

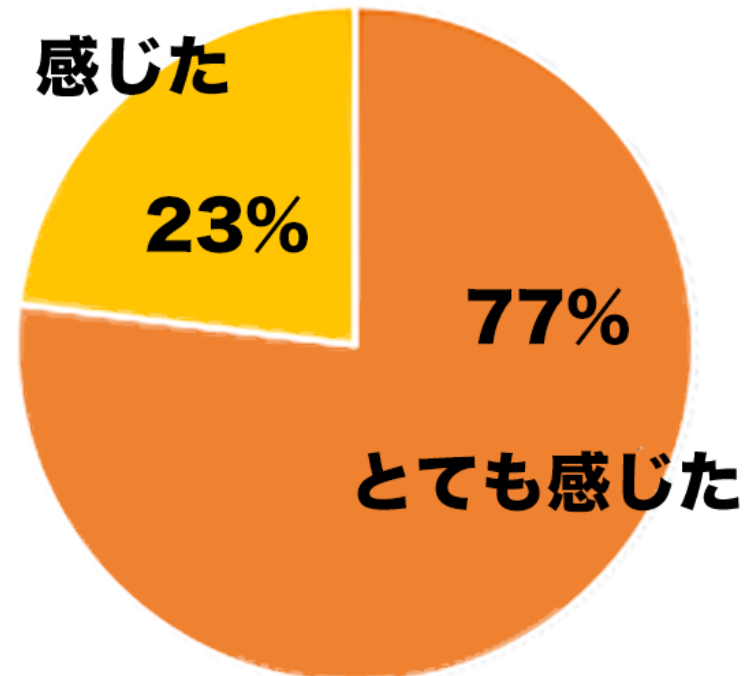
「自分の意見を言うのを苦手な私でも、
安心して意見を言えた」

「大人が真剣に子どもたちに場所を作ってくれようと
していることが分かって、嬉しかった」

「大人が自分たちの話をちゃんと聞いてくれることが、
こんなに"快感"なんだと思わなかった」

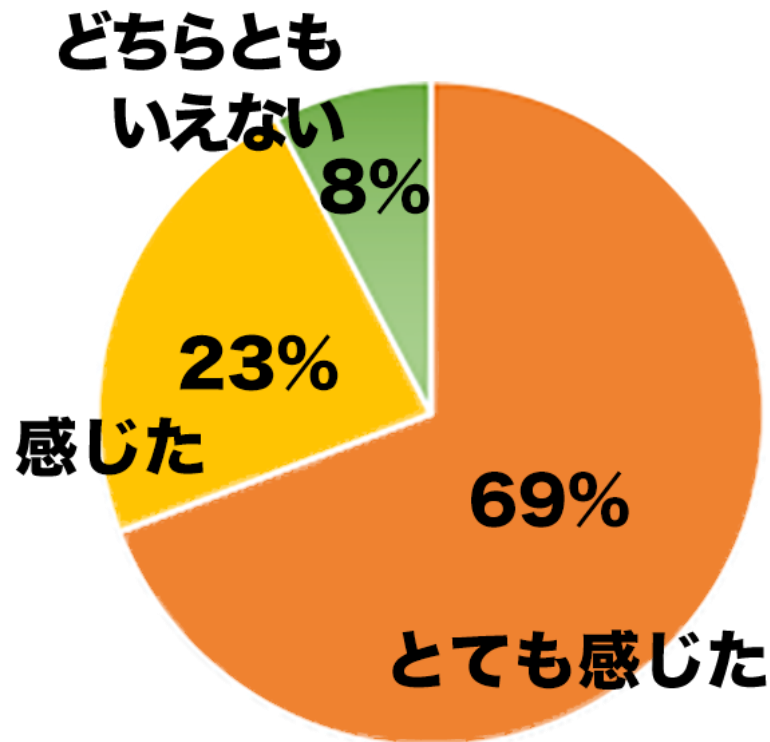
Q. 『こどもかいぎ』の必要性

お子様が『こどもかいぎ』に参加したことで、日本の子どもたちが話し合う機会を持つ必要性を感じられましたか？



Q.子どもの問題を改善する『こどもかいぎ』

「子どもの頃から対話」をする習慣があれば、周りに相談しやすくなり、いじめ、うつ、不登校、ひきこもり、自殺、性暴力などの改善につながる可能性があると感じられましたか？



◎保護者さまの声

「否定せず聞いてくれる場があれば、子どもたちは自分の考えを伝えようとするのだ、ということがよく理解できました」

「相づちを打ったり、リアクションをとったり、話している子をじっと見つめたり、話の聞き方が上手になりました」

「話すのが苦手な子、自分をなかなか出すことが出来ない子も、小さい時から発言する機会があれば、自分を好きになれたり、理解してくれる仲間が出来たり、考え方が変わったりするのではないかと思ったので、とても必要性を感じました。」

■ 本日のアジェンダ

1. なぜ子どもに対話の場を作ることが必要なのか？
2. どうやって子どもの声を聴いていけばいいのか？

◎子どもの話を聞く3つの大きなポイント

1. あえて「場」を作る
2. 話すトピックによって変わる
 - ・ レポート系(Report)
 - ・ イベント系(Event)
 - ・ テーマ系(Theme)
3. 時間がかかる

◎レポート系(Report)

- 朝ご飯は何を食べた？
- 昨日、おうちでどんなことをして遊んだ？
- お休みの時にどんなところに出かけた？

など、日常の出来事などを話し合ったり、報告し合う。

◎イベント系(Event)

- お散歩や遠足に行く場所、運動会、お楽しみ会、卒園式など行事の内容を話し合う。
- 「答え」を決める。

◎テーマ系(Theme)

- 先生が設定した、もしくは、子どもたちが話したいテーマをもとに話し合う。
- あえて「必然性のない」テーマを。

◎テーマ系(Theme)の例

<初級>

- 好きな食べ物・嫌いな食べ物は?
- パパ・ママの好きなところは?
- 最近、楽しかったこと・嫌だったことは?

<中級>

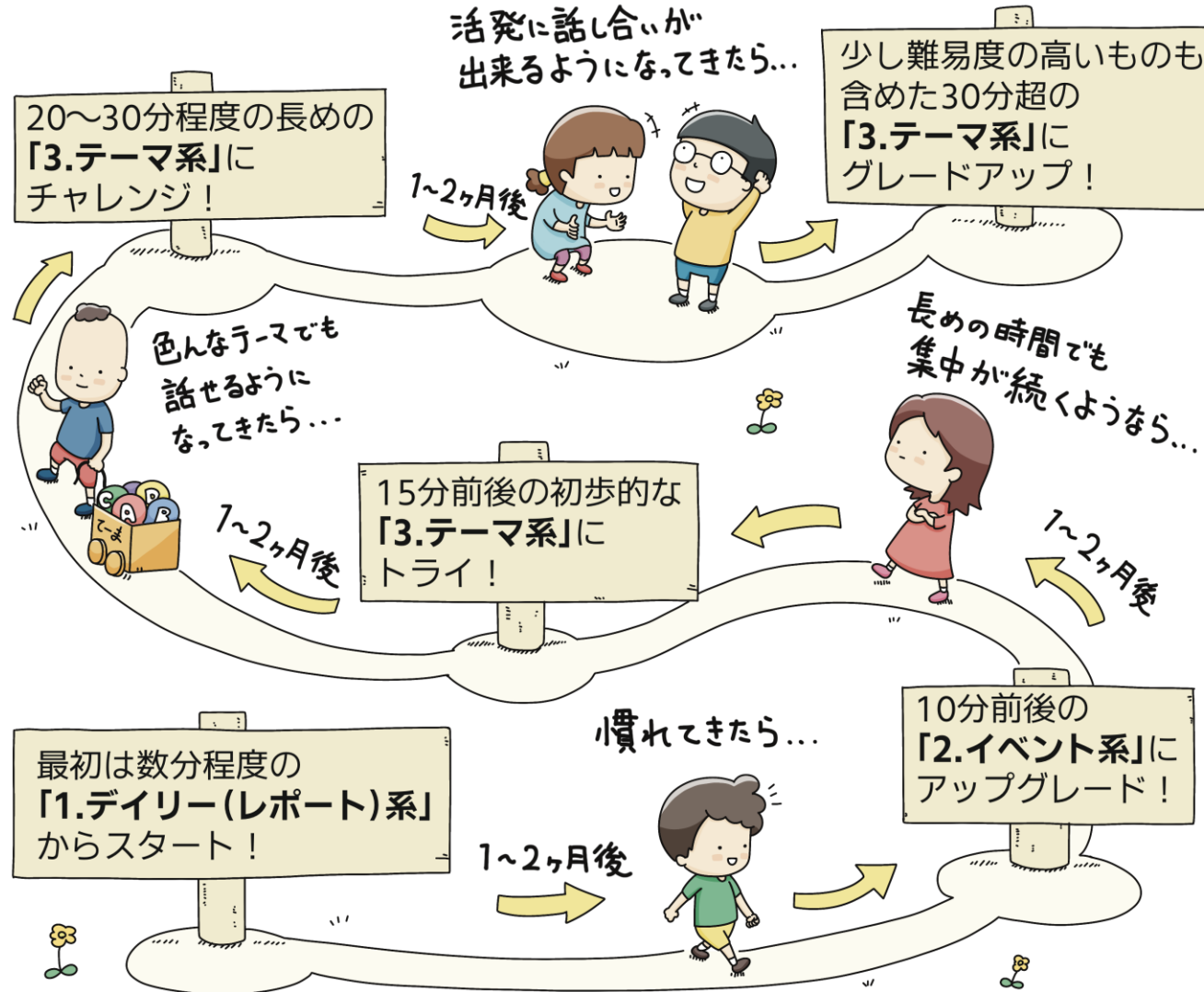
- なぜ雨や雪が降るの?
- なぜケンカをするの?
- どうして涙が出るの?
- なぜ葉っぱは色が変わるの?
- 電車はどうやって動いているの?

<上級> (哲学的なテーマも)

- なぜ生まれてきたの?
- 死ぬってどういうこと?
- なぜ人は生きるの?
- なぜお母さん・お父さんは怒るの?
- お金ってなんだろう?
- 頭が良い人ってどんな人?
- 嘘をつくのは悪いこと?
- 普通ってなんだろう?

答えは出なくてもOK!

◎ 『こどもかいぎ』 の推奨ステップアップ例



『こどもかいぎ』の最重要ポイント： 大人の運営が求められる

■ ファシリテーターの主な役割

- 話を聴く
- 話を引き出す
- 発言や対話が進むように質問を投げかける

◎話の「聴き方」3つのポイント

1. 相手の言葉を否定しない
2. 相手の話を最後まで聞く
3. 反応が分かるように聴く

◎皆さんへのご提案

『こどもかいぎ』は「こどもまんなか」社会の根幹です。

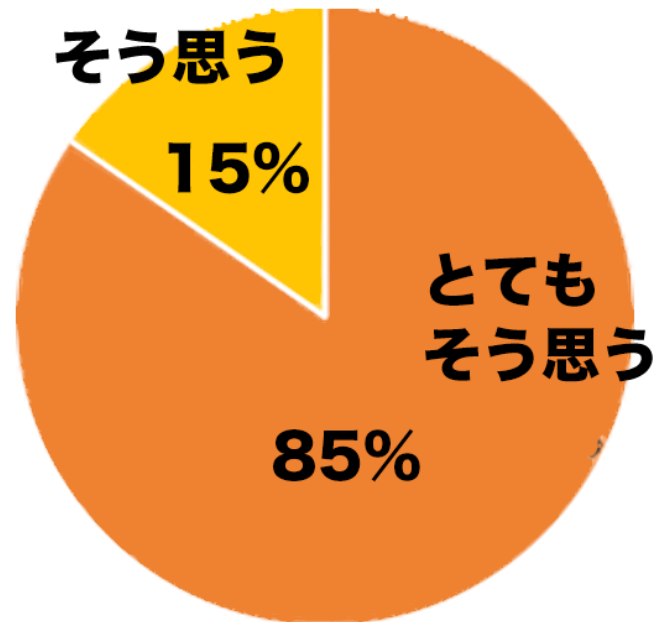
子どもたちに対話の機会を、ぜひ一緒に作っていきませんか？

参考資料

◎ 『こどもかいぎ』に参加したお子さんへのアンケート

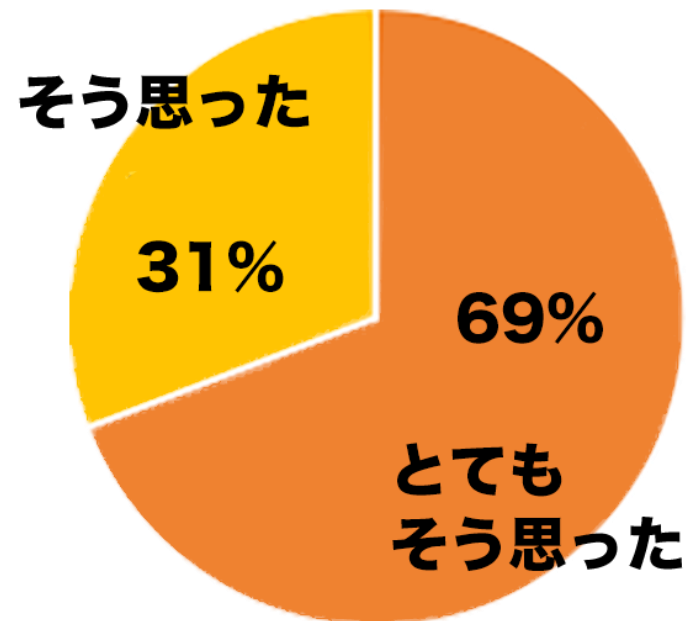
Q. 『こどもかいぎ』の必要性

『こどもかいぎ』のようなものを学校等でも定期的に実施してもらいたい! 必要だ! と思いますか?



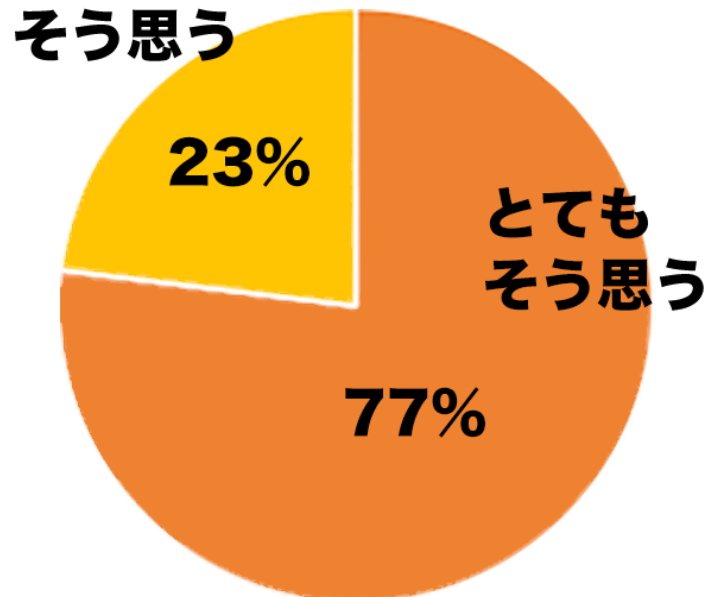
Q.居場所としての『こどもかいぎ』

会議が終わった後、自分の話を受け止めてもらえた安心感を感じたり、『こどもかいぎ』は自分の居場所になりうると思いましたが？



Q. 『こどもかいぎ』で改善する生活環境

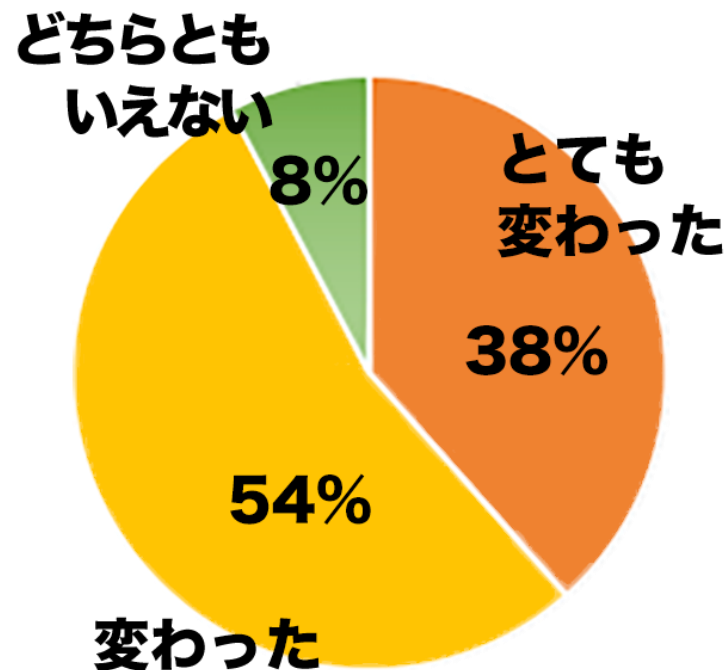
もし、『こどもかいぎ』が学校などで定期的に取り組まれていたら、いじめや不登校、引きこもり、ケンカなど、子どもを取り巻く様々な問題や、生活する環境は良くなっていくと思いますか？



◎ 保護者さまへのアンケートデータ

Q. 『こどもかいぎ』に参加したことによる子どもの変化

子どもたちが「自分の気持ちや感情を言葉にしたり、発言したり、対話をする力」があることへの印象が変わりましたか？



◎ うまくいかない『こどもかいぎ』

1. カオス状態
2. 無風状態
3. 凸凹状態

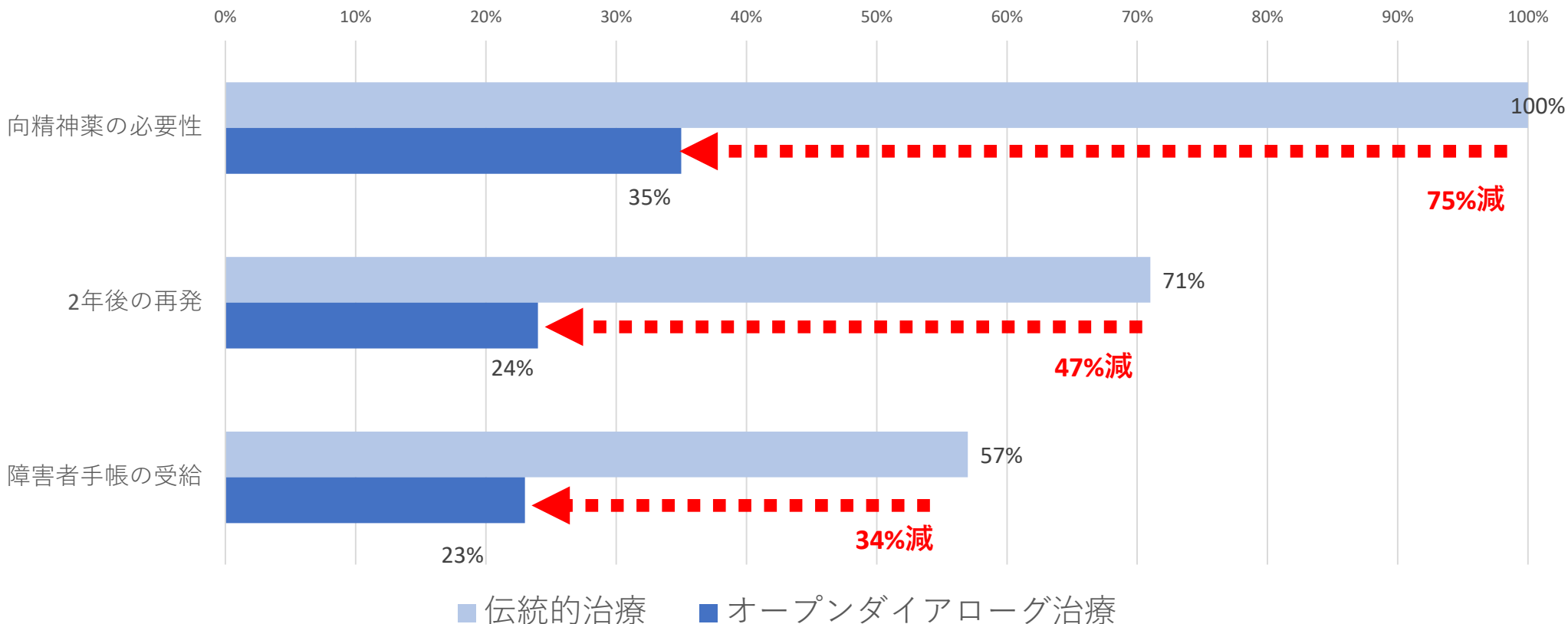
◎ 『こどもかいぎ』 場づくりのポイント

1. 楽しそうな雰囲気
2. 笑顔
3. 事前のコミュニケーション
4. アイスブレイク
5. 話の聴き方、話し方、質問の仕方

◎現状の3つの課題

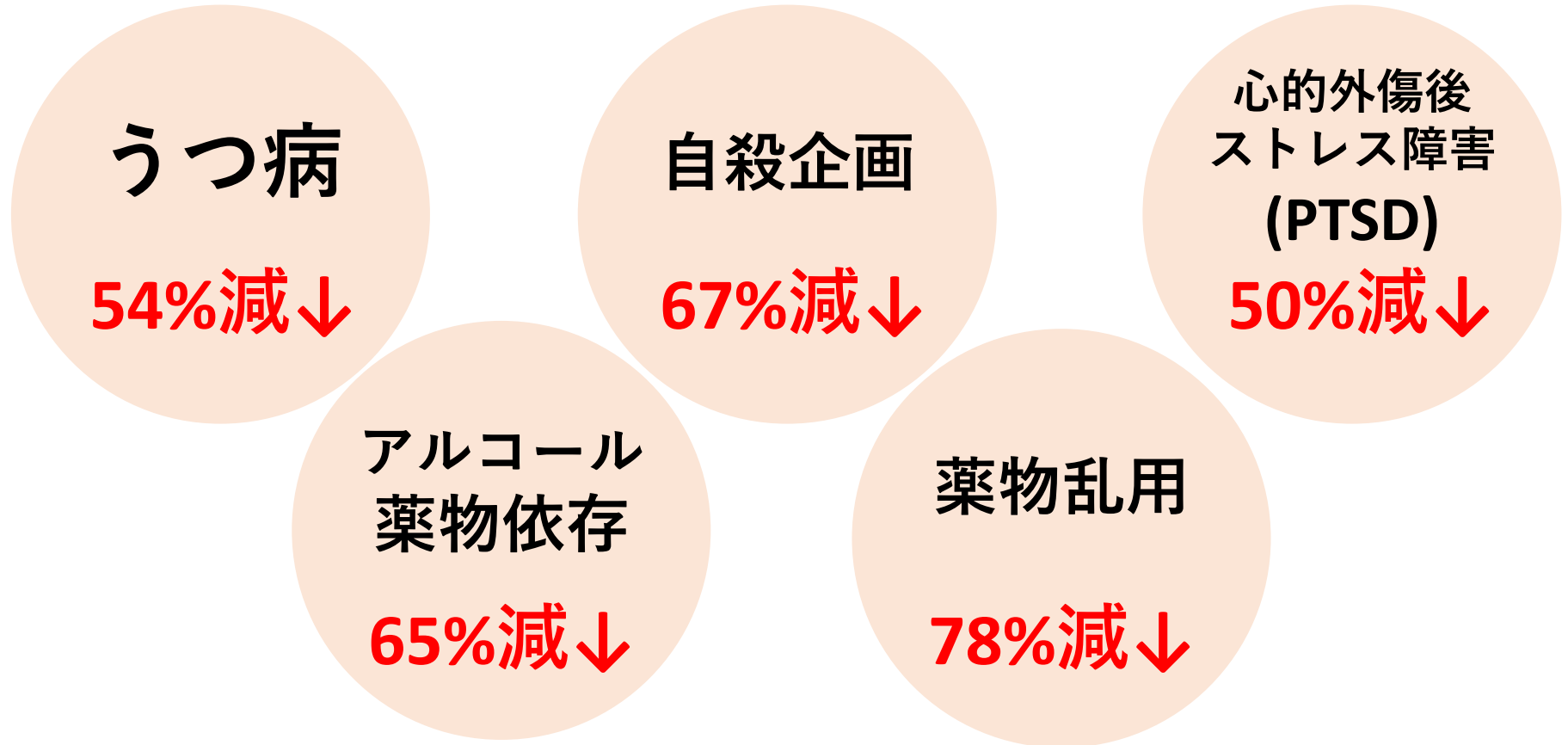
1. 『こどもかいぎ』の理解者が少ない
2. 『こどもかいぎ』をバックアップ法律や政策などが無い
3. エビデンスがほとんど存在しない

◎統合失調症患者に対話治療(オープン・ダイアローグ)を導入したフィンランドでの研究結果



また、統合失調症の年間発病率が 12年で10万人中33人から7人に減少

◎児童虐待の撲滅が精神疾患の減少に



医療・福祉費の削減に

◎『こどもかいぎ』の場を設けることで改善できる「子ども事案」

子ども事案

- ・ 児童虐待
- ・ いじめ
- ・ 自殺
- ・ うつ
- ・ ひきこもり
- ・ 不登校
- ・ ヤングケアラー
- ・ 性暴力 等

発言する機会・話を聞く場が
定期的に存在すれば



- ・ 気持ちを言葉で発せられるようになる
- ・ 周りに助けを求めやすくなる
- ・ 相談が容易になる
- ・ SOSをキャッチしやすくなる

◎対話の習慣によって減少する社会問題

児童虐待

DV

暴力

性暴力

犯罪

反社会的活動

うつ・精神疾患

依存症

自殺

ひきこもり

不登校

ジェンダーギャップ

パワハラ

ストーカー 等

◎対話の習慣によって作り出される新しい未来

- 社会問題の改善
- 将来的な社会問題の予防
- 実用的な人材育成
- 新たなビジネスや仕組みの創造



- 強い国力
- 対話をベースにした真の民主主義社会
- 戦争のない平和な社会

◎対話社会へのステップ

① ファースト・ステップ(2022~2023)

- 映画『こどもかいぎ』
- トリセツの作成
- ファシリテーターの養成
- 「こどもまんなか意識」を芽生えさせる様々な仕掛け
- データ取得開始

↓

映画を見た人たちを中心に、幼稚園、保育園、子ども園などでの実践が
草の根でスタート(目標は100園以上)

↓

◎対話社会へのステップ

② セカンド・ステップ(2024～2025)

- エビデンス・データが取れ、政策に活かされ始める
- 「対話特区」の策定・・・自治体、地域、もしくは企業で実験的に開始しPDCAで効果検証
- 「こどもまんなか意識」が社会全体で増えていく
- その他の幼稚園、保育園、子ども園でもスタート
- 私立の小・中・高校でも実践スタート



◎対話社会へのステップ

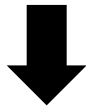
③サード・ステップ(2025～)

- ・公立の小中高で実践



④フォース・ステップ(2030～)

- ・未就学児から高校生までが対話する仕組みが制度として作られている
- ・大人間、大人-子ども間、子ども間の3方向での対話が増える



⑤最終ゴール(2040? あと18年、68歳!)

- ・日本中で様々な社会問題を、対話により改善・解決していくことができるようになる。
- ・幸せな大人と子どもが増える
- ・真の民主主義社会へ

■ 現状のその他の課題

◎動機面

- ・『こどもかいぎ』の理解者が少ない
- ・子どもが話せると思っていない
- ・話し合う習慣がない。
- ・効果が分からない。

※そもそも、大人も対話をしない。

◎現場

- ・『こどもかいぎ』の進め方がワカラナイ(→トリセツ)。
- ・時間・マンパワー・余裕がない。
- ・ファシリへのサポート体制がない。

◎社会

- ・日本は「こどもまんなか」社会ではない。
- ・国民の関心が低い。

◎政策

- ・『こどもかいぎ』を義務づける、推奨する法律や政策などが無い。
- ・データやエビデンスがほとんど存在しない。
- ・未就園児と小学校の連携が薄い。

■課題解決のためのアイデア(案) こどもかいぎ

- 「こどもの日」の一大イベント化
- 「『こどもかいぎ』宣言園」を認定して助成金
- 保育士のスキルアップとしての『こどもかいぎ』
- 「こどもまんなか意識」を芽生えさせる様々な仕掛け
- エビデンスの取得

■ 今後の活動

- ・ たくさんの人に映画を見てもらう
- ・ 『こどもかいぎ』をする園、学校へのサポート
- ・ エビデンス・データを集めるサポート
- ・ 外国でのエビデンス調査
- ・ 市区町村でモデルケースを作る
- ・ 文科省・関連する議員への働きかけ
- ・ 保育園・幼稚園の全国組織に協力依頼
- ・ 企業とのコラボ
- ・ 保育業界誌での露出
- ・ 仲間を増やして広げていく
- ・ インフルエンサーとのコラボ

◎私たちがお手伝いできること

- 映画『こどもかいぎ』の上映・勉強会・研修などでの活用
- ガイドライン作りやデータ作りへの参加、アドバイス
- その他、こども家庭庁の設立・発展に関する様々なご協力